

薬剤耐性キュウリ褐斑病菌の発生実態

農業総合センター園芸研究所

キュウリ褐斑病

県内で、キュウリ褐斑病（写真1、2）の発生は増加傾向にあり、早急な防除対策の確立が望まれています。

現在、防除薬剤として、ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤（ゲッター水和剤）とジエトフェンカルブ・プロシミドン水和剤（スミブレンド水和剤）が多く地域で使用されています。



写真1 発病初期の病斑



写真2 褐斑病で枯死した葉

薬剤耐性キュウリ褐斑菌の発生実態

県内のキュウリ栽培農家から任意に選んだ9農家のうち、7農家でチオファネートメチル水和剤（トップジンM水和剤）に対する耐性菌、3農家でジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤（ゲッター水和剤）に対する耐性菌、1農家では、ジエトフェンカルブ・プロシミドン水和剤（スミブレンド水和剤）に対する耐性菌の発生が確認されました。

表1 茨城県における薬剤耐性キュウリ褐斑病菌の発生状況

検定菌株数 (採取農家数)	薬剤別耐性菌株数 (発生農家数)		
	チオファネートメチル	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル	ジエトフェンカルブ・プロシミドン
113 (9)	69 (7)	10 (3)	12 (1)

耐性菌が発生している圃場では、薬剤の防除効果が低下する可能性があります。新たな耐性菌の発生を防ぐため、同一薬剤、同系統薬剤の連用は避けましょう。

表2 薬剤散布体系の悪い例と良い例

散布日	悪い例	良い例
月 日	スレックス水和剤（プロシミドン）	スレックス水和剤（プロシミドン）
月 日	スミブレンド水和剤（ジエトフェンカルブ・プロシミドン）	ジマンダイトン水和剤（マンゼブ）
月 日	ゲッター水和剤（ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル）	ダコール1000（TPN）

* 農薬散布は、使用前にラベルを確認し、周辺作物に農薬がかからないよう注意して行いましょう。